

生体の科学 第16巻 総目次

1965年 (第1号～第6号)

〔巻頭言〕

研究と知識	萩原 文二	1 (1)
研究の歴史に学ぶ	岳中 典男	53 (2)
薬物の慢性投与動物実験の		
重要性	島本 暉朗	105 (3)
日本人の研究に思う	高木 康敬	161 (4)
境界領域での研究について	菊地 吾郎	209 (5)
基礎医学部の設置を望む	吉村 寿人	261 (6)

〔綜説〕

Adrenergic Mechanism	佐久間 昭	2 (1)
血管の神経支配	入内島十郎	162 (4)
脂肪組織の生化学	大野 公吉・横山 彰	168 (4)

〔論述〕

大脳の inhibitory transmitter		
としての homocarnosine		
について	森 昭胤・川西 正謹	25 (1)
輸尿管の興奮発生とその伝導	小林 惇	177 (4)

〔実験講座〕

電子計算機(1)	清水留三郎	41 (1)
電子計算機(2)	清水留三郎	88 (2)
電子計算機(3)	清水留三郎	138 (3)
電子顕微鏡試料作製法		
超薄切片法(1)	五十嵐至朗	142 (3)
電子顕微鏡試料作製法		
超薄切片法(2)	五十嵐至朗	192 (4)
電子顕微鏡試料作製法		
超薄切片法(3)	五十嵐至朗	242 (5)
流量測定法(1)	入内島十郎	296 (6)

〔文献案内〕

グリアを研究するにあたって		
どんな本をよんだらよい		
か	岡本 道雄	48 (1)
平滑筋の研究をするにあたって		
どんな本を読んだらよい	後藤 昌義	102 (2)
結合組織の研究をするにあつて		
でどんな本を読んだらよい		
か	水平 敏知	156 (3)

蛋白質の生合成について研究す

るにあたってどんな本を読ん		
だらよいか	緒方規矩雄	206 (4)
酵素レベルで代謝調節を研究す		
るにあたってどんな本を読		
んだらよいか	徳重 正信	246 (5)
プラスミンの研究をするにあた		
つてどんな本を読んだらよ		
いか	岡本 彰祐	308 (6)

〔アンケート〕

ホジキン・ハックスレー学説

について	品川 嘉也・檜橋 敏夫	
	竹内 昭・山本 啓太	
	渡辺 昭・大山 浩	
	栗山 黒・中島 重広	33 (1)

蛋白質の構造について

	赤堀 四郎・成田 耕造	
	野田 春彦・岩井 浩一	
	角戸 正夫	85 (2)

中枢神経系について

	大島 知一・田中 潔	
	清水 信夫・古河 太郎	
	塚田 裕三・今泉 礼治	
	小沢 俊次	134 (3)

ミトコンドリアの形態について

	品川 嘉也・小川 和朗	
	佐藤 七郎・山田 英智	
	村上 悟・水平 敏知	
	田代 裕	187 (4)

ミトコンドリアの機能について

	萩原 文二・小池 正彦	
	佐藤 了・奥井 誠一	
	奥貫 一男・内海 耕造	
	和田 博・勝沼 信彦	249 (5)

心筋のプラトー電位について

	田中 一郎・山岸 俊一	
	中島 重広・柴田 二郎	
	佐野 豊美・前川孫二郎	292 (6)

〔交 見〕

〔基礎医学に何をのぞむか〕

二つの大きな任務をせおつた基

基礎医学	沖中 重雄	44 (1)
批判と論争の精神を	吉利 和	44 (1)
植物神経不安定症状の背後には	榎 哲夫	45 (1)
臨床のための研究を!	高橋 暁正	45 (1)
将来をになう若い研究学徒		

の奮起を	三浦 岱榮	45 (1)
現実の臨床における問題に		

耳を	織畑 秀夫	45 (1)
素養と知識と親切心と	中島 章	47 (1)
共通の広場を考えよう	山村 雄一	92 (2)
互いに互いを考えよう	和田 豊治	92 (2)
シナプスについて	南雲 仁一	93 (2)
基礎医学者の人員と機構	真下 啓明	93 (2)
基礎と臨床の協力体制を	佐野 圭司	94 (2)
聴診器の1本も	笹本 浩	95 (2)

〔基礎医学と臨床医学との関係は

どうあるべきか〕

基礎医学者のもつ根本理念は	三浦 義彰	148 (3)
教育面と研究面	山田 英智	148 (3)
共同態勢を積極的に	黒河内 寛	149 (3)
健康な医学	本川 弘一	149 (3)
臨床医学と薬理学	中沢与四郎	150 (3)
「共通の場を」	早石 修	150 (3)
一丸となつた協力態勢が緊要	伊藤 宏	196 (4)
まず教育面よりの改革を望む	吉村 寿人	196 (4)
協同研究の体制を緊密に	佐々 学	197 (4)
両者をいかに立派に橋渡し		

すべきか	牧野 堅	198 (4)
医学は二つの頭をもつた蛇?	太田 邦夫	200 (4)
医学と医道の本質に徹する		

努力を	平沢 興	200 (4)
基礎医学と臨床医学の隔壁		

をとり去ろう	阿部 正和	201 (4)
もつと一体になつて、根性のある		

研究者を育てよう	山崎 英正	202 (4)
生物体に結びつけて行なう		

生化学	古武 弥人	254 (5)
臨床側から人材の派遣を	吉沢 善作	254 (5)
人間の科学に人間の多大な		

努力を	高木健太郎	255 (5)
医学は1本である	小川 鼎三	255 (5)
教授が教育についての真の		

努力を	有山 登	256 (5)
分身として	岳中 典男	257 (5)
座談会		

「基礎医学はいかにあるべきか」

	吉川 春寿・小川 鼎三	
	菊地 吾郎・渡辺 宏助	
	石川 浩一・北村 和夫	
	熊谷 洋	262 (6)

〔海外だより〕

第6回国際生化学会議	三浦 義彰	38 (1)
国際会議に出席して	吉川 春寿	39 (1)
NIH 留学記	倉富 一興	97 (2)
スウェーデンだより	本郷 利憲	98 (2)
アメリカだより	石井 敬成	100 (2)
Yale 大学訪問記	高木 貞敬	152 (3)
Bad Nauheim の2年間	入来 正躬	153 (3)
ボストンにて		
—Kuffler 研究室から—	大塚 正徳	204 (4)
Indiana 便り		
Indiana 大学医学部薬理学教室		
	竹屋 範英	258 (5)

〔話し合い・その他〕

蛋白質の構造		
	安藤 鋭郎・吉川 春寿	
	江橋 節郎・関根 隆光	14 (1)
生体運動セミナー抄録集	殿村雄治・他	300 (6)

〔主題 ポリペプチド 1〕

展望		
生理活性ポリペプチドについて		
	守屋 寛	54 (2)
座談会		
活性ペプチドの生成		
	関根 隆光・守屋 寛	
	鈴木 光雄・江橋 節郎	66 (2)

論述		
核酸に関与しない Polypeptide		
の合成	伊藤 英治	77 (1)

〔主題 ポリペプチド 2〕

綜説		
ACTH の構造と機能	矢島 治明	106 (3)
インシュリンの構造と機能	佐竹 一夫	117 (3)
話し合い		

ポリペプチドの作用機構

.....木村 徳次・曾我部博文
江橋 節郎.....126 (3)

〔主題 免 疫 1〕

免疫における諸問題.....山本 正...210 (5)
抗原の構造.....野口 順蔵・山本 浩之
戸倉 清一.....217 (5)
抗体の構造.....橋 武彦...222 (5)
抗体産生反応の機構.....村松 繁...232 (5)

〔主題 免 疫 2〕

補体結合反応.....井上 公蔵...273 (6)
補体の生物学的活性
-抗体産生の問題をめぐって...西岡久寿弥...279 (6)
同種移植免疫.....藤井源七郎...284 (6)

〔書 評〕

D. Mainland 著

“Elementary Medical Statistics”

.....高橋 暁正... 32 (1)

阿南功一・他編

“医学和英活用辞典”.....江橋 節郎... 84 (2)

A. J. Crowle 著, 辻周介, 寺村文男訳

“遅延型過敏症”.....進藤 宙二... 91 (2)

T.H. Bullock & G.A. Horridge 編

“Structure and Functions
in the Nervous Systems
of Invertebrate”.....勝木 保次...146 (3)

高橋忠雄 監修

“肝 臓”.....吉川 春寿...147 (3)

山村雄一・織田敏次 編

“臨床酵素化学”.....吉川 春寿...195 (4)

M. Dixon et al. 編

“Enzyme Nomenclature”
.....山野 俊雄...291 (6)

Ruyssen, R. & Vandendriessche, L. 著

“Enzymes in Clinical Chemistry”
.....和田 正久...295 (6)